STOP！介護崩壊 介護ウェーブ2010推進ニュース
－介護ウェーブの"Big Wave"をおこそう！－

新方針を具体化し、参院選で介護問題を国民的な争点に押し上げ、制度の抜本改善を必ず実現させよう

現場から「これでいいのか!介護保険」という声をあげて政府・国会へ届けよう！

「介護に笑顔を！」北海道連絡会主催「変えよう！介護保険」全道集会を開催400人が参加

「介護に笑顔を！」北海道連絡会が呼びかけた「変えよう！介護保険」全道集会が、６月５日の夜に開かれました。会場には仕事を終えた職員が次々と詰めかけ、遠く函館、北見、釧路など全道から４００人の参加で、笑いも怒りもあり、そして参院選に向けて、現場から声を挙げていくことの大切さを実感できた集会になりました。

むくどり姉妹の漫才（福祉保育労）、「悪魔（厚労省）」ＶＳ「介護レンジャー」（苫小牧連絡会）、「伝えようみんなの声」（かりぷ）のパフォーマンスが会場をおおいに沸かせてくれました。続いて行われたシンポジウムでは、事業者、利用者家族、職員の立場から、制度施行１０年の振り返りと、「どう変えていくのか」提言がありました。

村山文彦さん（道介護支援専門員協会副会長）は、「『家族を介護から解放する』とのうたい文句に多くの人が期待を抱いた。けれど、同居家族による介護を前提にした制度に変わってしまった。それまで現場での良識的判断に任されていたことが削られ、制度による縛りが厳しくなっていった」と１０年を振り返りました。荒井一美さん（東ヘルパーセンター）は、通院介助などの事例を紹介しながら、「日々違う利用者の状態にあわせて必要な介護をしたいのに、制度とケアプランに縛られてしまっている。その人らしい生活を支える訪問介護を」と訴えました。下村笑子さん（札幌認知症の人と家族の会副会長）は、「事業所、職員と本音で語り合える信頼関係がほしい」として、「けれど、しょっちゅう職員が入れ替わるのは残念。安定した労働条件が利用者・家族にとっても願い」と語りました。そして「認知症でも一人暮らしでも安心してくらせる社会に」「早期から終末期まで切れ目ない支援体制を」と「家族の会」の提言を紹介して、「安心できる社会保障制度を作り上げるのは国民の力です」と呼びかけました。フロアからは、登録ヘルパー、特養職員、グループホーム職員からの発言に続いて「働きながら介護にあたっているがもう限界。介護休業制度の拡充を急いでほしい」という切実な家族の発言もありました。まとめで、石井秀夫代表（特養かりぷあつべつ施設長）は、「私たちが粘り強く運動を続けてきたことが制度を変える力になっていることを確信にして、現場から”これでいいのか!介護保険”という声をあげて、政府・国会へ届けよう」と呼びかけました。

（変えよう！介護保険 2010.6.7 「介護に笑顔を！」道連絡会より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで
TEL　03-5842-6451　／　FAX　03-5842-6460　／　E-mail　min-kaigo@min-iren.gr.jp